

製品名: RACK7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16827**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	132kDa

抗原情報

遺伝子名	ZMYND8 ZMYND8; KIAA1125; PRKCBP1; RACK7; Protein kinase C-binding protein 1; Cutaneous T-cell
別名	lymphoma-associated antigen se14-3; CTCL-associated antigen se14-3; Rack7; Zinc finger MYND domain-containing protein 8
遺伝子 ID	23613.0
SwissProt ID	Q9ULU4
免疫原	抗血清はヒト PKCB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 581-630

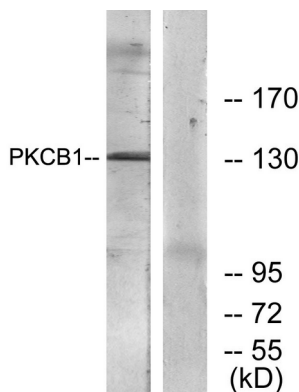
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、活性化Cキナーゼ (RACK) タンパク質の受容体です。このタンパク質は、in vitroにおいて活性化プロテインキナーゼ Cβ1に結合することが示されています。さらに、このタンパク質は皮膚T細胞リンパ腫関連抗原でもあります。さらに、このタンパク質はプロモドメインと2つのジンクフィンガーを含み、転写調節因子であると考えられています。この遺伝子には、複数の異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2008年7月],PTM:DNA損傷時にリン酸化される(おそらくATMまたはATRによる),類似性:プロモドメインを1つ含む,類似性:MYND型ジンクフィンガーを1つ含む,類似性:PHD型ジンクフィンガーを1つ含む,類似性:PWWPドメインを1つ含む,サブユニット:PRKCB1とin vitroで相互作用する,組織特異性:検査したすべての組織で発現し、脳、肺、脾臓、胎盤で最も高い発現が認められた。皮膚T細胞リンパ腫 (CTCL) で発現が認められた。

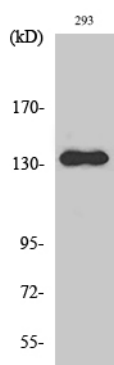
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、ドメインファミリー、ジンクフィンガー、シグナル伝達、タンパク質リン酸化、チロシンキナーゼ、受容体チロシンキナーゼ、転写因子

画像データ



PKCB1抗体を用いた293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



RACK7ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析